

# 「見える」移民と「見えない」人種

ラルフ・エリスンの『見えない人間』と移民の表象

平沼 公子

## 1. 「移民の表象」とアメリカ文学の関係

人種・民族という区分は、個々のアメリカ文学作品を特徴付ける際に用いられてきた重要な分類の方法である。この分類は、たとえ合衆国が名実ともに移民の国であるとしても、多民族の総体からなる「移民のアメリカ文学」という大きな語りが困難なことを示すだろう。人種・民族の語りは文学批評とも連動し、人種・民族の表象の意義と問題点を指摘し、またそこに政治性を読み取る研究をも発展させてきた。人種・民族的に自らと異なる他者を描く行為が象徴的暴力を孕む可能性を明らかにしたのは、こうした批評の功績のひとつだろう。この象徴的暴力をめぐる問題は、大抵はマジョリティによる人種・民族的マイノリティ表象において立ち現れる。しかしまた、人種・民族という分類の中の「移民」という側面を照射すると、社会的権力関係が明確ではないマイノリティ間における表象の問題と意義を読み取ることができるだろう。本発表では、アフリカ系アメリカ人作家ラルフ・エリスン (Ralph Ellison) の『見えない人間』(*Invisible Man*) における、西インド諸島からの移民の表象を分析した。アフリカ系アメリカ人の社会的・存在論的状况を、不可視性という比喻を用いて描く『見えない人間』において、異質に際立って描かれるのは西インド諸島からの移民だ。本発表の目的は、民族的に多様な合衆国の「黒人」コミュニティ内の同質性と差異の表象から、マイノリティ作家が他者としての移民を描く意味と問題を明らかにすることである。

## 2. 移民／人種—アフリカ系アメリカ人と「黒人」たち

合衆国において、20世紀初頭にパナマ運河建設の労働力として流入したカリブからの移民、その後のアフリカ大陸各国からの移民や20世紀末に増加したドミニカ系の移民といった、「黒人」と総括される移民たちの存在は、アフリカ系アメリカ人と区別されると同時に、黒人コミュニティ内の多様性に寄与してきた。『見えない人間』で、アフリカ系アメリカ人と移民の黒人の対比は、語り手インビジブル・マン (*Invisible Man*) と説教師ラス (Ras the Exhorter) の関係に表象される。西インド諸島出身とされ、自らアフリカの血をひくと主張するラスは、破壊者ラス (Ras the Destroyer) とも呼ばれ、ハーレムの黒人たちにアフロセントリズムを説きつつ先導する活動家だ。ラスが象徴するのは、1920年代から30年代にかけて合衆国の黒人を取り巻いてきた言説とイデオロギーである。ラスが、Universal Negro Improvement Association の Marcus Garvey、また African Blood Brotherhood の Cyril V. Briggs をモデルにしていること、そして彼らが代表したパン・アフリカニズムやアフロセントリズムにエリスンが懐疑的であったことは、これまでも指摘されてきた。パン・アフリカニズムとアフロセントリズムは、その戦略の一部として、人種という基盤を捨て去るのではなく、人種を共通項として黒人たちを共闘へと向かわせる意図を持つ。しかしながら、本作品においてラスの企図したハーレムの黒人の連帯は失敗し、移民である彼の主張は合衆国出身の語り手インビジブル・マンには届かない。『見えない人間』において、移民の黒人は、黒人という集団内の多様性を示すと同時に、人種基盤には囚われないアフリカ系アメリカ人のアメリカ性を認識するために必要な他者として描かれているのである。

## 3. 目に見える他者としての移民—*Invisible Man* における移民の表象

民族衣装をまとい、訛った英語で話し、ズートスターたちを先導するラスは、「ギャングスタ」(hoodlums) と形容され、語り手インビジブル・マンと差異化される。白人との共闘を嫌悪し、黒人の団結を訴えるラスは、語り手インビジブル・マンを以下のように罵倒する。

“And you, mahn,” the Exhorter said, “a reg’lar little black devil! A godahm sly mongoose! Where you think you from, going with the white folks? I know, godahm; don’t I know it! You from down South! You from Trinidad! You from Barbados! Jamaica, South Africa, and the white mahn’s foot in your ass all the way to the hip. What you trying to deny by betraying the black people? ... Why you go over to the enslaver? What kind of education is that? What kind of black mahn is that who betray his own mama?” (*Invisible Man* 371)

ここでラスは、出自の異なる黒人たちを総括し、黒人が総体として団結すべきだと主張する。しかしこの主張は、「ナイフを振り回しながら」(371)、ラスの訛った英語で喚かれるため、その攻撃性と異質性のみが強調され、結果的に「移民」と「アメリカ人」の差異を印象付ける効果をもたらす。このラスの描かれ方が、エリス

ン自身の西インド諸島からの移民への偏見に基づいているという指摘もある。エリソンは、

We had a girl from Sierra Leone and West Indians—we tended to link them all together. The sense of the alien was strong. It was not antagonism but a matter of totally different cultural backgrounds. I didn't share much of the interest in these people... Usually, I thought them quite British. I had no cultural identification with them. (Isaacs 67)

として、西インド諸島からの移民を、自分たちとは異なり大変イギリス的だと考えていた。こうした作家の思想の背景には、アフリカ系アメリカ人が合衆国特有の体験を保持しているという意識があるだろう。エリソンは、

And yet, from the very beginning I wanted to write about American Negro experience and I suspected that what was important, what made the difference, lay in the perspective from which it was viewed.” (*Shadow and Act* 16)

と述べているが、ここでの American Negro とはアフリカ系アメリカ人であり、その他の黒人、つまり移民の黒人たちは差異化される物語を語る者たちなのである。

#### 4. 他者を語ること、他者に語らせること

『見えない人間』におけるラスの表象は、集合的な「抑圧の体験を共通項とする黒人」の連帯を割くのが、皮肉にも「アメリカ人」という移民に対置される市民の意識だという結論を引き出す。しかしながら、この結論を他の側面から考えることも可能だろう。Henry Louis Gates Jr. は、「人種は、実際には修辞であるのに、客観的な腑分けの用語を装う」(49) と述べている。移民の表象を差異と同質性の修辞として考えた時、『見えない人間』におけるラスは、移民という客観的な腑分けの用語で表されることで、その輪郭を与えられる。同時にラスは、エリソンの考えるアフリカ系アメリカ人を取り巻く存在の問題を照射する機能を持つ。この存在の問題は、人種がアイデンティティの拠り所であるにも関わらず、それによって不可視性から逃れられないという問題である。ラスは、この語り手インビジブル・マンの不可視性を照射する移民の修辞なのだ。語り手インビジブル・マンは、ラスの移民性に誤謬とも取れる可視性を与えることで、ラスと自分を差異化し、そこに自分の不可視性を認識する。この不可視性によって、語り手インビジブル・マンはどの分類にも収まらない「アメリカの物語」を語る事が可能となるのだ。『見えない人間』では、「アメリカ大陸の黒人」という共通項が描かれつつも、移民という区分が維持されることで、グループの分類には収まらない「アメリカ合衆国の黒人」が形成される。マイノリティが語る時、抑圧という共通項によって他者の抑圧を正確に語ることは不可能だろう。しかし、自らの抑圧の体験は、他者の抑圧の体験との差異から発見されるものでもある。『見えない人間』は、この意味において、アメリカ文学における人種・民族の語りの在り方を説明している。本作品の最後の一文、

Who knows but that, on the lower frequencies, I speak for you? (581)

は、語り手が自らの不可視性を読者に向けて語りかけると同時に、不可視性の体験を代弁することで、その代弁された物語とは差異化される「あなたの不可視性の物語」を読者が語り始めることを促す、『見えない人間』を移民の国アメリカの物語へ結実させる結びなのである。

#### 主要参考文献

Ellison, Ralph. *Invisible Man*. 1952. New York: Random House, 1995.

--- *Shadow and Act*. 1964. New York: Random House, 1995.

Gates Jr., Henry Louis. *Loose Canons: Notes on the Cultural Wars*. Oxford: Oxford UP, 1992.

Isaacs, Harold R.. “Five Writers and Their African Ancestors.” *Conversations with Ralph Ellison*. eds. Singh, Amritjit and Maryemma Graham. Jackson: U of Mississippi P, 1995. 63-9.

Waters, Mary C.. *Black Identities: West Indian Immigrant Dreams and American Realities*. New York: Harvard UP, 1999.